

県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）に関する意見と県の考え方

※提出された御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。

御意見の概要	県の考え方
プラン・プログラム全般	
<p>今回、職業系専門学科に関して工業科について触れられませんでした。第2次案以降に触れられることとなると思います。科学・先端技術・工学・数学（・リベラルアーツ）と工業高校の学びは大変近いものがあります。ぜひ、このことを踏まえていただき、総合学科とともに工業科についても、STEM教育（STEAM教育）について触れていただきたいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の工業高校再編に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>プランの「II 魅力ある県立高校の推進」に「多部制定時制高校の設置の検討」がありましたが、第1次実施プログラムでは含まれませんでした。午前部・午後部の二部制は、ニーズがある地域があれば設置を検討しても良いと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の多部制定時制高校再編に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>障害を持った子どもの受け入れについては、どの程度の受け入れを考えているのかを明確に示していただきたいと思います。車イスやストレッチャーなどを使用している生徒は、学校にエレベーターがないことで、志望校が限られてしまわないようにしていただきたいと思います。また医療的ケアのある生徒に関しては、学校に看護師を常時配置するなどの人員の確保もお願いしたいです。障害があるものは支援学校しか選択肢がない今の現状も変えていただきたいと思います。</p>	<p>御意見につきましては、関係課とも共有し、今後、施策を検討していく上での参考とさせていただきます。</p>
<p>中高一貫校の推進をさらに発展させ、中等教育学校を設置してもよいのかと考える。郡部に設置すれば、生徒が都市部へ流出することを防ぐ手立てにもなり得る。地域密着型の学校ということで、特色ある学校づくりにつながるので、検討の余地はあるのではないかと。</p>	<p>中高一貫教育校の設置につきましては、国の施策や他県の状況を注視しつつ、県内の地域の状況も踏まえ、引き続き研究してまいります。</p>
<p>これまでの高校改革の成果と課題をしっかりと検討していただきたい。高校改革が各県立高校に何をもたらしたのか、子ども達には何をもたらしてきたのかを見つめ直す時ではないかと。</p>	<p>いただいた御意見を参考に、県立高校の更なる魅力化・特色化に向けた取組を推進してまいります。</p>
<p>前プランの「改革の方向性」は現プランに匹敵するすばらしい内容でしたが、高校再編以外の各項目の達成状況・評価が公表されていません。現プランの策定懇談会の議事録にも他県プランとの比較分析とともに、前プランの「改革の方向性」の各項目の達成度・評価・議論がなく、説明願います。</p> <p>プラン「改革の方向性」8項目のうち、プログラム案に記載のない「学習意欲を喚起する学びへの変換、探求的な学びの推進、キャリア教育と職業教育の充実、効果的な学校運営の推進、教育環境の整備、地域等との連携・協働」について、具体的施策体系と各事業実現目標年度等を明記し、かつ主に外部委員会で構成する評価委員会を設置し、PDCAサイクルを確実に回すべきです。</p>	<p>前プランの評価につきましては、再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて実施しています。いただいた御意見については、今後の高校改革の参考とさせていただきます。</p>

<p>中央教育審議会答申のサブタイトル「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」のためには、プランの重点項目「全ての高校の魅力化と学びの改革、キャリア教育と職業教育の充実、学校間連携、戦略的な広報」も重要です。内容は「改革の方向性」の一部ですが、県民にわかりやすくするため、こちらも具体的施策体系と各事業実現目標年度等を明記すべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>普通科の魅力づくり、特色づくりは、本県だけに限らず、全国的な課題であり、「教員基礎コース」「保育基礎コース」「医療系コース」「福祉コース」といった多様なコースの設置は、社会のニーズにも対応していて、課題解決のための有効な手立てとして高く評価できる。</p>	<p>今後も本県の生徒にとって、魅力ある県立高校となるよう努めてまいります。</p>
<p>「教員基礎コース」「保育基礎コース」「医療系コース」「福祉コース」のような様々なコースの設置は、社会のニーズに応えるとともに、普通科高校の特色づくりを進める上で効果的な取組だと思えます。今後のプログラムでも様々なコースの設置を期待しています。</p>	
<p>教員・保育・医療・介護、あるいは先端IT人材など、本県において喫緊の課題である人材の育成について、県教委としての方向性がしっかり示された、よいプログラムであると考えます。こうした施策を着実に実施し、本県の県立高校で学んだ生徒たちが、「千葉県で学んで本当に良かった」と心から思えるような学校づくりを進めていただくことを期待しております。</p>	
<p>全体的に県立高校改革推進プランに沿った魅力ある取組だと思えます。これらの魅力づくりを着実に実行するためには、設備や教員などの人的支援も必要になります。教育委員会は、第1次実施プログラムを力強く推進するために現場の声に寄り添った対応をお願いしたい。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>専門的な学びができることに期待感を持っている。教員の採用計画についても専門性を持った教職員の採用が必要だと思えます。自動車科（工業）、福祉、水産などは、教員免許以外の資格が必要な場合もある。教員の養成や採用、採用後の資格取得などの育成（研修）等の体制について、計画的にお願いしたい。</p>	
<p>工業技術者、介護（福祉）、保育等の人材確保が社会的に求められていることが示されている。生徒募集に関して受検しやすさ（検定料の支援）、入学後の学用品購入に係る費用（支援）など普通高校より費用がかかることがある。社会的に人材が必要とされている分野の具体的対応についてどのような計画があるのか。</p>	<p>高校改革の推進にあたっては、既設校の施設・設備の有効活用を図りながら実施したいと考えています。厳しい財政状況ではありますが、必要な予算の確保に努めるとともに、効果的・効率的な施設運用等の工夫により、魅力ある県立高等学校づくりを進めてまいります。</p>
<p>各専門学科、コースには、実験・実習室がある。一人一台端末を活用する中で、実験・実習室等でのWi-Fi環境が整備されていない。専門的学びに生かせない状況の解消が必要と思う。</p> <p>冷暖房に関して、実験・実習室の設置が必要。授業は、安全面や授業の特性から夏季の暑い日でも長袖で作業したり、窓を開けられない場合などもある。普通高校とは異なり特別教室が多い。これらの対応についてどのような計画があるのか。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革の参考とさせていただきます。</p>

<p>2ページ以降、各コース設置等の【再編の内容】【教育内容等】の記述を、1ページ「第1次実施プログラム(案)」第3段落における「学校教育に対するニーズの多様化」という視点を反映した記述にすることが望ましいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>第1次実施プログラム(案)の「I 魅力ある県立高校づくりの推進」のすべての再編項目・対象高校の説明文中に様々な外部機関との「連携」が謳われています。中心となる「コーディネーター」的な職員の配置が必要です。それ故に、教職員増について言及する必要があります。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の高校改革に向けた参考とさせていただきます。</p>
<p>第3段落の「経済的・社会的に困難を抱えている子供たちの増加等を背景とした学校教育に対するニーズの多様化」を例示するのはよいが、この課題に対する取組みが「第1次実施プログラム(案)」の中に見当たらないのが残念である。記述を残すなら、「第2次実施プログラム案に向けた課題」として、第1次プログラム案に掲載できなかった他の課題とともにまとめて末尾に記載するのがよい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「○学区別の中学校卒業生数の推移」のあとに「予測」または「推定」を加筆すべきです。また、予測または推定をした時期も明示するとともに、第1次実施プログラムを策定する際は最新のデータを反映したものに修正してください。</p>	<p>「○学区別中学校卒業生数の推移の見込み」とさせていただきます。</p>
<p>第1次実施プログラム(案) p 1の6～9行目について、「経済的・社会的に困難を抱えている子どもたちの増加」とありますが、特に、高校生の生活実態(いわゆる「子どもの貧困」やヤングケアラー等の問題)について、県教委としてどのように把握されていますか。「県立高校改革推進プラン」の本文のほうにはあまり具体的な記述・資料が掲載されていませんでしたが、今回の「第1次実施プログラム案」には、どこに反映されているのでしょうか。</p>	<p>「第1次実施プログラム」において、4 社会のニーズに対応した教育として、地域連携アクティブスクールを行徳高校と市原高校に設置し、また、通信制協力校の指定を銚子商業高校とするなど、中学校時代に様々な事情で力を発揮できなかった生徒が高校でやり直せる体制を拡充しました。</p>
<p>第1次実施プログラム(案) p 1の6～9行目について、「学校教育に対するニーズの多様化」と挙げていますが、今回の「第1次実施プログラム案」には、どこに反映されているのでしょうか。</p> <p>「県立高校改革推進プラン」p 4には、「県立高等学校の課題 ア生徒の多様なニーズへの対応」として「経済的、社会的に様々な困難を抱えた生徒」とともに、「外国人の増加等を背景に、日本語指導が必要な生徒」がふれられ、「このような状況を踏まえ、県立高等学校においては、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じた多様な科目選択が可能となる仕組みを充実させるとともに、生徒一人一人の多様なニーズに応じた教育活動を展開することを可能にする体制を整える必要があります。」と述べられています。</p> <p>これこそが今回の「県立高校改革」の重要なポイントと考えます。多少長くなっても、このp 1の中でふれるべきと考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>御意見を踏まえ、1ページの前書きに「県立高校改革推進プラン」4ページの内容の一部を追記しました。</p>

<p>p 1に「早期に実施すべき内容について検討を進めて」きた、とありますが、今回の「第1次実施プログラム案」にどう反映されているのでしょうか。コースの設置についてはいくつか提案されていますが、「人材」育成的なものが目立ち、肝心の本県の高校教育の内容については読み取れません。せっかく「県立高校改革推進プラン」で高校生を取り巻く状況、地域の課題、多様な学びのニーズにこたえる教育内容は、という問題提起がなされたのに、途中経過でも結構ですので、検討課題、検討の状況について p 1以降でふれてはいただけないでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「PDCA」で「全ての改革を行なうこと」について、改革案が、どのように現場に具体化され、どのような学校づくりが行われ、どのような生徒が巣立っていったのか、そして中学生が、どれくらい受験したか、それらについて、事実を可視化することで、地域が学校づくりに参画できるようにすべきである。</p> <p>今回の「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム(案)」についても、県立高校の全ての教育について、どのようにして「PDCA」が使われたか、事実をもって明らかにすべきである。</p> <p>今後10年間において、どのようにして、何回この「PDCA」を使って、より良い千葉の教育を創造していくのか、明らかにすべきである。</p> <p>そして、この「PDCA」に基づいて、県民の討論を巻き起こしていくべきである。これが学校づくりの基本中の基本と言わなければならない。生徒が、地域が、現場が、一緒になってどのような学校と地域を創造するか、という点からも、このことを県民に明らかにすべきである。</p> <p>このことを具体化するために、パブリックコメント提出者と策定懇談会の委員との懇談会の開催を強く要請するものである。</p>	
<p>天羽高校では現3年生が初の「工業基礎コース」学年で、コース選択時も希望が多く卒業後の進路に工場等就職を希望する生徒も非常に多い。今後も多くの選択希望が見込まれるが、最大の課題が県予算の都合で工業の授業施設整備が制限されてしまい、人数制限(学年15人まで)していることである。工業の授業を学びたいと入学しても、工場系に就職したいと希望しても、成績等を理由に別のコースにまわり工業の授業が受けられない。「社会や地域・生徒のニーズ」という観点から考えても、天羽高校には工業基礎コースの充実が求められていることは間違いない。工業基礎コースの設置は成功と考えている。さらに発展させるため、是非とも施設整備の予算や教職員配置など継続して県の支援をお願いしたい。少なくともなるべく早く1学級(40人)規模が授業を受けられるようにしていただきたい。</p>	<p>いただいた御意見については参考とさせていただきます。今後も生徒のニーズに応えた教育環境の整備に努めてまいります。</p>

御意見の概要	県の考え方
普通科及び普通系専門学科・コース	
<p>高校段階から教員や保育士に関する様々な体験をすることは、大学進学後のモチベーションに直結するものと考えます。今後、千葉県のどの地域に住んでいても教員基礎コースや保育基礎コースで学ぶことができるよう、設置校の更なる拡充に期待します。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>教員基礎コース、保育基礎コース、医療コースの設置について 高校がスクールポリシーを策定し、より一層特色を打ち出すことが求められているなか、特色あるコースの設置は有効である。コース設置は夢や意欲、職業意識を育む上で有用であり担い手育成の面からも必要性が高いため、学校の取組を教育委員会が継続的に支えていく仕組みを整えてほしい。</p>	<p>大学や地域との連携等、学校の取組を支援してまいります。</p>
<p>教員基礎コースは、各地域への設置のバランスから考えると今回の3校設置は必要と思います。専門的な学びを通して教員になるための基礎を学び職業意識を育むことは、教員養成系大学等への進学に向けた準備として有効と思います。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、取組を推進してまいります。</p>
<p>千葉県の普通科では、これまでも様々なコースを設置して普通科の特色づくりを他県に先駆けて進めてきた政策を高く評価している。その中で、人材確保が必要といわれる教員、保育といったコースは、需給状況を見据えて、今後も積極的に進めることを要望する。</p>	<p>今後もプラン・プログラムに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>安房高校の教員基礎コースの生徒が、本校に体験にきます。高校生にとっては、教育現場を知る良い機会になると思います。また、中学生にとっては、高校生と触れ合うことで、「自分もこんな高校生になりたい。」「自分も安房高校に入学して、教育基礎コースで学びたい。」といった目標を持てる良い機会になります。本コースの設置は、積極的に進めて欲しいです。</p>	
<p>教員基礎コースの【教育内容等】の最後（5番目）の「教員基礎コースで身に付けた資質・能力を生かし、教員養成系大学への進学を目指します。」は踏み込み過ぎで削除すべき。というのも、他の4項目は我孫子と君津に教員基礎コースを設置するとき（県立学校改革推進プラン・第3次実施プログラム）の説明にもあった内容であり、その際の県民説明会でも「決して、教員になることを強制するものではなく、興味・関心をもってもらうことが大事」と回答していたのに対し、今回、新たに5番目の内容が加わると「教員基礎コース」の内容が変質させられてしまうからです。 教員免許状は何も教員養成系大学だけではなく、一般の大学でも教職課程を履修して必要な単位を修得すれば授与されるものなので、教員養成系大学だけを抜き出して記述するのも戦前の師範学校を想起させ、時代錯誤かと。他の保育基礎コースや医療系コースでも保育系、医療系大学や専門学校への進学を目指す等の記述がなく、均衡がとれません。</p>	<p>御意見を踏まえ、「教員基礎コースで身に付けた資質・能力を生かし、教員養成系大学等に進学し、教職への関心を深めることにより、大学進学後に教員免許を取得することを目指します。」に修正しました。</p>

<p>教員基礎コース設置案として三校が挙げられていますが、なぜこれらの高校なのでしょう。説明会では、教職に就く卒業生が多い、という理由をあげていましたが、それはデータがあるのでしょうか。また、結果として教職に就くことと高校生のうちから「教員を目指す」こととは本質的に異なるし、混同してはならないと考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>卒業生の教員への就業割合の他、すでに学校独自で行っている取組等を踏まえ、検討を進めてまいりました。</p> <p>教員に興味・関心を持つ高校生が、夢を実現するために魅力的な取組を推進してまいります。</p>
<p>教員基礎コース設置案で挙げられた高校では、職員から希望があがっていたのでしょうか。生徒・保護者はどう思っているのでしょうか。少なくとも国府台高校については、生徒の「ニーズ」ではないと思われます。そもそも「教員養成課程」等への進学希望者は多くないと思われませんが。</p>	
<p>そもそも高校生の時代に特定の職業に向けた「コース」を設定すべきではない。特に「教員」については「コース」設定すべきではない。</p> <p>理由は以下のとおり。高校生のうちから教員を目指すということ自体はその生徒の自由であるし、もちろん否定されるものではないが、こと児童生徒を相手にする仕事においては有害に働くこともある。生徒個人が、漠然とではあれ教員という職・在り方を描きながら高校で学ぶことはあるとしても、「教員養成コース」という枠の中で学ぶことは、かなりの生徒が躊躇するだろうし、忌避する生徒も多いと思われる。問題点は次の3点。</p> <p>①「教員基礎コース」という存在は、高校での学びを一定の「鋳型」にはめ込むことになり、多様な学び、多様な生き方（職業を考えることも含め）にふれる機会、自分を見つめなおす作業等を自ら閉ざすことになる。このことは、多様な生徒への指導・支援が求められる教員の姿から離れることになってしまう。</p> <p>②「教員基礎コース」の中で、小中学生とふれあったり、学びに関わるという実習の時間が組まれる場合があるが、短時間での限られた「経験」・「体験」は一面的な「見方」・「自己評価」につながる恐れもあり、危険である。実習が生きるとすれば、失敗・悩みの中から課題を見つけ、学びにつなげることにあるが、そのような時間的保証はないし、そんな時間があれば、ふだんの学習、高校生活での経験のほうが、はるかに（教員という職に限らず）生きるであろう。</p> <p>③将来、結果として教員という職に就くことがあってもいい。実際、紆余曲折の末に、教員という職にたどりつく場合も少なくない。むしろそのようなプロセスがある分だけ、生徒にとって「魅力的な」または「力になる」教員となる可能性もある。教員不足だから「教員養成」を、これは企業経営としての大学・短大等にとってはうまい（儲かる）話だが、これに公教育が乗っかることは自殺行為である。</p>	
<p>プログラム案の「教員基礎コース設置」に賛成しますが、戦略的広報として「働き方改革」を追加し、業務削減・業務分担改善年次計画、専任のスクールカウンセラーの全校配置整備年次計画、スクールサポーター・スクールコーディネーター等拡充年次計画、学校運営改善年次計画など必要なプログラムに追記すべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、担当課と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>千葉県保健医療計画によると本県の医師数は、人口10万人当たり189.9と全国平均240.1を大きく下回っており、全国で多い順に第45位である。また、看護師は673.5で全国46位（全国平均905.5）と低い状況にある。今後、高齢化の一層の進展により、医師や看護職員の不足感はますます高まると計画は予想している。この状況で医療人材の育成は本県にとって喫緊の課題であり、若いうちから医療マインドを育成できる学校を増やしてほしい。</p>	<p>今後も医療人材の育成に向け、コースの拡充について検討してまいります。</p>
<p>1 普通科及び普通系専門学科・コース「(4)グローバルスクールの設置」、【再編の内容】中の「高校にグローバルスクールを設置します」という記述の再考が必要と思います。また、【教育内容等】中の「～を研究します」や「学校設定科目の開発、研究、普及」との表現についても、それぞれ変更が必要と思います。</p> <p>【理由】 この部分のみ、他の、A高校にBコースを設置する、という表現とは異なり、内容・意図が分かりにくいため。また高校が主体である場合、現行の「開発」「研究」などの用語はそぐわない。</p>	<p>御指摘の内容につきましては、前改革推進プランにおける表記に合わせたものとさせていただいております。</p>
<p>グローバルスクールは反対。再考を求めます。</p> <p>【理由】</p> <p>①グローバルスクールはもう古い概念である。国際理解教育、多文化共生教育という幅広い教育活動を、すべての高校で実施すべきです。</p> <p>②ESD教育は、「国際教養科」に限らず、すべての高校でとりくむべき課題です。「研究」すべきは、すべての高校ですし、すでに多くの学校で実践が取り組まれています。</p> <p>③多くの外国につながる生徒の学びのサポート、生き生きと学べる教育内容をこそしっかり検討し、実施に移してほしい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p style="text-align: center;">御意見の概要</p>	<p style="text-align: center;">県の考え方</p>
<p style="text-align: center;">職業系専門学科・コース</p>	
<p>農業経営者育成に関するコース、起業家育成に関するコース、観光に関するコースについて、職業系専門学科が担う意味を考えると、より高度な内容を目指すコースの設置は有効である。これまでも、農業経営者や起業家の育成に関する取組はあったと思うが、コース設置の前と後では何がどう変わるのか、新しいコースが何を指すのか、をはっきりさせることで、中学生や保護者にとって、よりインパクトのある内容になると思う。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>福祉コースを設置する学校間の連携が円滑に進み実効性のあるものとなるよう県教育委員会の支援をお願いしたい。</p>	<p>福祉教育拠点校を中心に、福祉系高校の連携がいつそう推進されるよう、取組を支援してまいります。</p>
<p>工業系コンソーシアムなどの先例を参考に、ぜひ福祉の連携コンソーシアムの取組を進めていただくことを期待します。</p>	<p>プラン・プログラムに基づいて取組を推進してまいります。</p>
<p>福祉人材の育成は重要な課題であり、高校教育においても福祉人材の育成に一翼を担ってほしい。</p>	<p>今後も福祉人材の育成に向けた取組を推進してまいります。</p>

<p>松戸向陽高校の福祉教養科の内容については、もっと広報されてよいと思います。専門学科として充実させるために、教員増、予算増、広報を含めた県のバックアップを期待します。</p> <p>福祉コースは、「コース」ではなく、ひとつの「系列」として、人的・予算的条件づくりのうえで実施すべきと考えます。</p> <p>今回の案の船橋豊富高校は、総合学科として「系列」を用意し、その一つとして福祉の学びを展開してはいかかでしょう。他校の「福祉コース」についても総合学科としての充実を再検討願いたいと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、福祉教育の更なる充実に向けて、専門学科での取組を支援してまいります。また、コースの総合学科としての位置付けについては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>小中学校におけるプログラミング教育が始まり、高等学校においても、その発展的取組が求められるところ、先端 IT コースの設置は、まさに時代が求める学びを提供することになるものと思います。今後、全県的なバランスも考慮しながら、こうしたコースを拡充いただくことを期待します。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とし、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>情報教育の充実については、情報科が中心となることと思いますが、広く DX 人材の育成の観点で、商業科において触れていただきたいと考えます。DX 推進にはエンジニア・プログラマは重要ですが、ビジネスの現場で DX を推進する人材の育成に関しては、高校段階において商業科でその素養を醸成することが適しているのではないのでしょうか。</p>	
<p>御意見の概要</p>	<p>県の考え方</p>
<p>総合学科</p>	
<p>郡部の伝統校である匝瑳は、近年、理数科の生徒募集が振るわず、特に令和4年度入学選抜ではその影響が普通科の募集にも及び、極めて厳しい状況となった。高校受験段階で中学生が専門学科を選択することは、3年間の学びの見通しを持つことが難しいこともあってか、どうしても敬遠されがちなので、既存の学びを残しつつ、入学時にそこまでの選択を迫らなくて済む総合学科への転換は、起死回生の一手となり得ると考える。同様の状況に苦しむ郡部の伝統校は他にもあり、そうした学校の総合学科への転換もできるだけ早く実施すべきである。</p>	<p>今後も、プラン・プログラムに基づき、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>今の中学生は普通科志向と言われ、高校の専門的な学びについて中学時点では決められない生徒が多くいる。総合学科は、入学後に自分を見つめる1年間の学びを経て、進路に対応した学びを選択できる利点がある。このように入学後に学びを選べる仕組みをもつ学校を、キャリア意識を高めるためにも増やしてほしい。</p> <p>総合学科は、入学後に生徒の興味関心に応じた授業を選択できる利点がある。生徒数が減少し、選択科目が少ない郡部の学校では、総合学科は、生徒にとって魅力ある学科である。</p>	
<p>匝瑳高校への総合学科設置は賛成です。理数科から理数系列へと国際に関するコースから国際系列への再構成の他にも、地域のニーズに応じた特色のある幾つかの系列の構成に期待しています。</p>	

<p>高校進学段階では、職業系に特化した専門学科への進学に踏み切れない生徒も見られるところ、幅広い学びができる総合学科の存在は大変重要であると考えます。今後は、都市部においても職業系も含めたさまざまな学びを選択できる総合学科の設置について検討いただくよう期待します。</p>	<p>今後も、プラン・プログラムに基づき、魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。</p>
<p>今回の案の船橋豊富高校は、総合学科として「系列」を用意し、その一つとして福祉の学びを展開してはいかがでしょうか。他校の「福祉コース」についても総合学科としての充実を再検討願いたいと思います。また、この間小金高校、幕張総合高校に設置した「進学を重視した総合学科」は総合学科ではありません。本来の、高卒後の就職・進学に幅広く考えられる「総合学科」を作るべきです。現行の「進学を重視した総合学科」は多様な選択講座を活かすという点からすれば、単位制高校としてリメイクしたらいかがでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>学科・コースという「枠組み」を増やすのではなく、自由選択講座を展開するような普通科を検討すべきです。</p>	
<p>総合学科と単位制を推進していく方向性に賛成する。そして、理想を言えば、大学のように年次を超えて履修できる科目を設定できるようになると良いと考える。現行でもそのようなことは可能ではあるが、現実としては、時間割作成の問題や、空きコマを過ごす生徒の場所の確保など、様々な問題があり導入が難しい。今後、職員の配置数を工夫するなどして、生徒が年次を超えて学び合える学校づくりが進むとよい。</p>	
<p style="text-align: center;">御意見の概要</p>	<p style="text-align: center;">県の考え方</p>
<p style="text-align: center;">社会のニーズに対応した教育</p>	
<p>地域連携アクティブスクールは、学びのセーフティネットとしての重要な役割を果たしており、設置校を増やすことは高く評価する。気になるのは、既存の4校と今回の2校で所在する地域に偏りがあることである。「県立高校改革推進プラン」によると、設置予定は残り2校ということで、全ての学区に設置することができないことになってしまう。</p>	<p>プランでは地域バランスや生徒や保護者等のニーズを踏まえ、既設の4校に加え、新たに4校程度設置することとしています。今後の設置については、全県的なバランスを考慮しながら拡充を図ってまいります。</p>
<p>中学校卒業者のほぼ全員が高等学校に進学する現状において、高等学校に求められるニーズも多様化する中、地域連携アクティブスクールのように、学び直しを始めとするきめ細かな学習指導や、スクールソーシャルワーカー等によるきめ細かな教育相談体制を有する学校への期待は非常に大きいと考えます。今後、県内のどの地域に住んでいても地域連携アクティブスクールで学ぶことができるよう、全県的なバランスも考慮しながら、更なる拡充を期待します。</p>	

<p>中学校で能力を十分に発揮できなくても高校では頑張ったり直したいという生徒は、不登校の生徒数から見て、大変多くいる。このアクティブスクールのように学び直しや地域との協力でコミュニケーション能力を身に付け、自立した社会人を育成する学校はまだまだ必要である。不登校生徒数などの状況を分析して今後も設置を検討してほしい。</p>	<p>プランでは地域バランスや生徒や保護者等のニーズを踏まえ、既設の4校に加え、新たに4校程度設置することとしています。今後の設置については、全県的なバランスを考慮しながら拡充を図ってまいります。</p>
<p>学び直しや実践的なキャリア教育を通して自立した社会人を育てる地域連携アクティブスクールに対する期待は大きいことから、新たに設置することは良いと思う。将来の納税者を育てるためには、丁寧な指導が不可欠であり、そのためにはマンパワーも重要である。キャリア教育のコーディネーターやスクールソーシャルワーカーを継続的に配置すれば、効果も大きいことから、是非とも継続的な配置をお願いしたい。</p>	<p>いただいた御意見も踏まえ、地域連携アクティブスクールの充実に努めてまいります。</p>
<p>今回、「地域」が強調されてきたが、単なる「学区」としての「地域」という意味か、「地域」とは何か、定義が明らかにされていない。何故か。</p> <p>千葉県には54の自治体があるが、これも「地域」である。小学校区も、「中学区」も地域である。</p> <p>①「地域連携アクティブスクール」を「行徳高校・市原高校」に設置するとしているが、これらの高校の場合の「地域」とは何か、明らかにされていない。何故か。</p> <p>②或いは、全ての県立高校が設置されている「地域」とは何か、明らかにされていない。何故か。</p> <p>③したがって「基本的コンセプト」に明記されている「地域」の中で、普通科及び普通系専門学科・コース、全県一区の職業系専門学科・コース、総合学科に対して、どのように「地域」を捉え、「地域の特性」を具体化していくのか、生徒が主人公の学校づくりを起点にして、それぞれの学校づくりと地域づくり、明確にすべきである。</p> <p>④その際に、「地域」が、自らの地域にねざした学校づくりの提案を保障すべきである。そのうえに立って、千葉県教育委員会の「計画」が策定されるべきである。順序が逆である。</p>	<p>いただいた御意見を参考については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>今後は、県内のどの地域に住んでいても、県立高校唯一の通信制高校である千葉大宮高校で学びやすくなるよう、館山総合、銚子商業の2校に加え、県内のすべての定時制高校を通信制協力校にするなど、更なる拡充を期待します。</p>	<p>今後も、プランに基づき、更なる拡充について検討してまいります。</p>
<p>通信制協力校は、遠距離に住む生徒にとっては、とてもありがたい学校であるので、ニーズを見て今後も増やしてほしい。</p>	
<p>映像配信による受講も可能になるため、千葉大宮高校の教職員が協力校（現行の館山総合高校及び今次プログラム案に挙げられた銚子商業高校）に出張して行う方式に限らず、負担にならない方法を採用することを、併せて確認してください。</p>	<p>オンラインでのスクーリングの実施など、負担軽減に向けた取組を検討してまいります。</p>
<p>開講科目に限りがあること、途中から制度を利用することができないことなど、制約を改善していただくと、さらにより良い制度になると思います。</p>	<p>御意見を参考にしながら、制度の利便性がより向上するよう検討してまいります。</p>

御意見の概要	県の考え方
適正規模・適正配置	
<p>下総高等学校では「園芸科」「自動車科」「情報処理科」の地元産業に密接な三科を有しており、地域社会に必要とされる特色有る人材育成を行っている大変貴重な存在である。</p> <p>下総高等学校のような地域に根ざして、有る面人材育成のインフラともいえる教育を行うことは公立学校の使命ではないか。これらの点に考慮して県の予算で支えていくことは、県民・国民の賛同を得ることは間違いないと確信している。</p>	<p>専門分野の人材育成は重要と考えております。いただいた御意見も参考に、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>都市部でも定員を満たすことができない高校が複数あることも踏まえて、是非都市部の高校の統合を進めてほしい。</p>	<p>地域の状況等を十分に考慮しつつ、統合により魅力ある高校となるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>是非都市部での統合を断行し、千葉県県立高校を守ってください。私立高校への進学者の増加を考えると絶対に必要だと思えます。</p>	
<p>地域連携協働校の指定について、「地元進学率が高い」という判断については、ぜひ柔軟に考えていただきたく、要望します</p> <p>県立高校は中学生にとって公教育の最後の砦です。郡部における中学生の選択肢の幅を狭めることのないよう、要望します。</p>	<p>地域連携協働校の指定については、学校の様子や地域の状況等を考慮しつつ、検討します。また、郡部においては、地域との連携や協力を得ながら、将来、地域の担い手となる人材を育成できるよう、高校配置の在り方について検討します。</p>
<p>部活動や学校行事など、学校における様々な活動をより活気のある充実したものにするためには、一定以上の生徒数は必要であると考えます。今後、県立高校で学ぶ生徒が、より充実した高校生活を送ることができるよう、生徒数の減少に応じた適正な学校配置について検討をお願いします。</p>	<p>活力ある教育活動が展開できるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>統合を進めるにあたっては、学校数が減っても、「結果的に子ども達の教育環境は良くなる」と説明してもらえれば理解が得られると思う。</p> <p>また、これまで統合後特別支援学校として活用する事例が多かったように思うが、それを含め、他の自治体の活用事例も幅広くリサーチしながら、自治体、教育委員会、経済界、地域住民の考えやアイデアをくみ取って計画を進めていただきたい。</p>	<p>統合により、より魅力ある高校となるよう改善を図ってまいります。今後も様々な御意見をいただきながら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>郡部については『地域社会衰退の懸念（地域の活性化）』の視点を打ち出し『地域連携協働校』として高校を残す道を切り開いた点は高く評価しますが、「統合により通学が著しく困難となる地域」という条件は削除していただきたい。</p>	<p>地域連携協働校の指定は、小規模校であっても学校を残すことで、通学への負担を軽減し、学びの場を保障することにあります。いただいた御意見も参考に、より充実した取組となるよう努めてまいります。</p>
<p>きめ細やかな教育活動や特色ある教育活動を可能とする少人数学級や小規模校の実現こそ有効であると考えます。郡部だけでなく都市部においても、当該生徒や地域が望む場合は存続を認める道を検討して欲しいです。</p>	<p>都市部においては、地域の実情等を考慮しつつ、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>生徒減を公立だけで調整するのは不公平でおかしい。第9学区は私立高校の定員が多すぎなのは明白で、全県的に突出して私立高進学率が高いのは大問題である。「地域の活性化」の役割を持つ公立高校存続のため、『公私比率の再検討・厳守』が不可欠だと考える。</p>	<p>公私協調のもと、引き続き十分な協議を進めてまいります。</p>

<p>部活動や学校行事に取り組みたいという生徒のニーズに応えるためにも、また、少しでも多い職員の配置の基で特色ある教育を展開するためにも統合は必要と思います。</p>	<p>活力ある教育活動を展開できるよう、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>厳しい社会で自分を失わずに主体的かつ協働して生きていく力を育てるためには、多くの生徒の中で切磋琢磨できる場が必要である。この方向を最上位に位置付けて適正配置・適正規模を力強く進めてほしい。</p> <p>適正配置について、地域の状況や通学範囲等を配慮しながら生徒数に応じた配置を進めてほしい。未充足の学校で同じタイプで近接する学校は、積極的に規模の適正化を進めてほしい。</p>	<p>多くの友人や教職員との触れ合いや、切磋琢磨の機会を確保するため、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>郡部では、交通機関を整備し、広域の通学の利便性を図る等の学校間の距離が開きつつある実状を解消するなど生徒数減少に対する策を検討しないのか。統合等については、地理的要因で考えるのではなく、実際の学習環境を考慮すべきと考える。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>適正規模については、学級数を減らすことの前に、1クラスの生徒数を30名～35名にしていくことを検討する必要があるかもしれない。</p> <p>適正配置について、郡部については、スクールバスの導入とセットで話を進めていく必要があるのではないかと。また都市部については、郡部以上に統合を押し進めていく必要を感じる。</p>	<p>県立高校の学級編成については、「県立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」を踏まえ、一学級あたり40人を標準としております。いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置【今後の対応】第4段落以降に、【これまでの経緯】にある「地域協議会」という文言をあらためて記載する方が良いと思います。</p>	<p>御意見を踏まえ、「なお、統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて、地域の方々から地域における学校の在り方について意見を伺い、検討を進めていきます。」に修正しました。</p>
<p>第4段落の「統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者など、地域の多くの方々にも、地域における学校の在り方について主体的に考えていただきながら、検討を進めていきます。」はプラン34ページの「学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。」と重なる部分もあるが、微妙に表現が異なる部分もある。違いがあるのなら、それを明示するとともに、その違いを説明すべきであり、ないなら、プランの内容をさらに細かく記述し、発展させたものと記載すべき。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「地域連携協働校」という新たな概念を評価しますが、対象範囲については、郡部にとらわれない発想が必要だと思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「地域連携協働校」について、【基本的な考え方】中の郡部の○3つ目にある「出張授業や遠隔授業」の在り方は明確ではなく、削除も含めて再検討をしてください。</p>	<p>「地域連携協働校」における【基本的な考え方】は、生徒にとって活力ある高校とするための重要な方向性として位置付けております。課題を踏まえ、十分に検討してまいります。</p>
<p>他県で実施されている、専門学科や人口急減地域での40人未満の学級編成を参考にしつつ、本県も少人数学級に踏み出す必要があると思います。</p>	<p>県立高校における40人未満の学級編成については、国の動向を注視してまいります。</p>

<p>40 人学級ではなく 35 人学級ではないかと思われま す。一人一人に目が届き、丁寧に生徒の声を聞くこと のできる環境がなによりではないでしょうか。</p>	<p>県立高校における40人未満の学級編成について は、国の動向を注視してまいります。</p>
<p>千葉県として高校の少人数学級の実施に向けた改善 の姿勢を示す時期に来ているはずですが、県教育委員会 としては国の情勢を注視するものと思いますが、高校 35 人学級が実現した場合も想定し、少なくとも7年後 までは高校統廃合には慎重であるべきです。</p>	
<p>都市部の適正規模について、「6以上」に固執せず、 柔軟に設定するべきです。</p>	<p>活力ある教育活動が展開できるよう、県立高校の適 正規模・適正配置に努めてまいります。</p>
<p>第8学区は、県立高校が4校あります。普通科、総合 学科（農業）、工業科、商業科、家政科、海洋科とバラ ンスが良く、多様な学びが可能です。一方で、自動車が 交通手段であり、1校でもなくなってしまうと、通学に 支障が生じる地域も出てきます。郡部の学校の在り方 については、地域と慎重な協議をしていただき、再編を 進めていただければと思います。</p>	<p>郡部において学びをバランス良く配置することは重 要と考えます。今後も、地域との協議を通じて、課題を 共有し、郡部における適切な高校配置の在り方を検討 してまいります。</p>
<p>【今後の対応】「統合にあたっては、生徒の…」と ありますが、具体的にどのように検討していくのか具 体的にさせていただきたいです。またその検討がどのよ うに県民に情報を公開しながら、どのように県民が参 画しながらなされるのかを具体的に記載していただき たいと思います。 従来の委員会の設置、県民説明会、パブリックコメン トをさらに充実したものにさせていただきたい。</p>	<p>今後も広く県民の皆さまからの御意見を伺いなが ら、県立高校の適正規模・適正配置に努めてまいりま す。</p>
<p>3 学級でも存続できる原則以外の「学校・地域の状況 等」について具体的に例示すべきです。17 ページでは 「生徒募集において著しく困難が生じる場合について は、統合も検討します」とも書かれているため、定員割 れが続いている九十九里高校と大原高校について今後 統合されるのではないかと大変心配になります。</p>	<p>郡部における適正規模・適正配置については、「地域 連携協働校」を指定するなど、郡部における新しい高校 の在り方を検討してまいります。</p>
<p>【基本的な考え方】郡部の「統合により通学が著しく 困難となる地域であり、かつ地元からの進学率が高い 高校を地域連携協働校に位置づけます」とありますが、 「かつ地元からの進学率が高い」を削除することが適 切であると思います。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせて いただきます。</p>
<p>入学者選抜制度の一本化によって「生徒募集におい て著しく困難が生じた」と考えられます。入学者選抜制 度に問題はないのか検討すべきであると思います。入 学者選抜制度の改善と適正規模・適性配置の検討を総 合的に行うための、県教育委員会内での組織・体制の整 備を求めます。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課とも共有し、今 後の参考とさせていただきます。</p>
<p>早急に「地域協議会」をすべての学区で立ち上げるべ きです。今後はすべての学区はもちろん、1回開催して 終わりではなく、10年間のプランの進捗状況も確認 するためにも節目ごとに適宜開催すべきです。県民の 共有財産である県立高校の存続にかかわる大事な議論 を密室で行うのではなく、情報公開の時代にあっては 公開で開催することを強く希望します。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせて いただきます。</p>

<p>一部私学に見られる入学定員を大幅に超過する入学者の受け入れは見直すよう県教育委員会並びに学事課で協議する必要があるのではないかと。千葉県においても県民の共有財産である県立高校の統廃合を掲げる前に、私立高校への補助金交付の運用を厳格化することで私立高校の入学定員の管理を適正に行い、公立と私立のバランスを保つことで、「生徒減少地域」の公立高校の募集定員の確保を図るべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「都市部」を面倒でも第1～第3学区へ、「郡部」を第4～第9学区へ名称変更を検討すべきです。</p>	
<p>「地域連携協働校」について、いつ、どのように、何校程度指定するのか、さらには指定のための基準が明らかになっていないのが不満です。また、全県で公平に指定されることを望みます。</p>	<p>「地域連携協働校」の指定については、通学の状況や地元からの進学状況等を踏まえ、慎重に検討してまいります。</p>
<p>「県外留学」制度について、「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム(案)」に明記されていないのは何故か。 小規模高校における特色ある学校づくりについて、他県の事例を研究して具体化しないのは何故か。 何故、全国の事例を具体的に資料化して議論しないのか。 地域の特性に合わせた、「子どもの権利条約」を活かした、児童・生徒の目線を重視した「生徒が主役」の高等学校づくりについて、計画の中に明記していないのは何故か。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「学校・地域の状況等配慮し、統合しない場合があります」との意見を具体化しないのは何故か。 「統廃合」ではなく、地域の特性に応じた小規模高校づくりを、全国各地の、文科省・自治省・国土交通省の方針にそって、明記すべきであるが、そのことに触れていないのは何故か。</p>	<p>国の動向や地域の状況等を注視しつつ、活力ある教育活動を維持するため慎重に検討してまいります。</p>
<p>「地域連携協働校」に位置づけられる可能性のある高校に対しては、できるだけ早い段階で、実施対象となるのか否かを連絡していただきたい。 学校運営協議会の設置及び設置後の運営については、できるだけ高校側が主導権を握れるようにしていただきたい。 人口増加、産業振興、交通網の拡充等、生活基盤全体の底上げとともに高校の存続も考えないと十分な効果は期待できない。 定員割れが続き存亡の危機にある高校では、少ない教職員と少人数の生徒とが様々な取組に力を注ぎ、見た目以上に疲弊している。県教委には、長期的な展望のもと高い視点に立ち、最善の策を講じていただきたい。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>地域連携協働校の指定条件について、指定そのものを地域に委ねるか、そうでなければ指定条件とその根拠をプログラムに明記すべきです。</p>	
<p>統合検討となる地元進学率の下限とその根拠、その他全ての統合検討基準を追記し、プログラム決定後3年程度は小規模校の入学生徒数の推移と地元市町の学校支援の状況を客観的に評価して、存廃を決定すべきです。</p>	

<p>郡部小規模校は、地域連携協働校の指定を検討する前に、高校の在り方について学校と地元市町が協議する場を設け膝突き合わせて頻繁に情報交換と意見交換を重ねるべきです。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>高校を核とした地域振興の観点からも、地域連携協働校の指定検討や近隣校との統合検討の前に、まず近隣校の教員が小規模校に出向き多様な選択科目を確保し小規模校の学校の魅力を高めることで、入学生徒が増えないかを検討することから始めるべきです。</p>	
<p>プログラムに郡部小規模校の統合基準を明記し、郡部の小規模校の存廃決定のタイムリミットとすべきです。</p>	
<p>小規模校と地元市町が率直に意見交換を重ね、ある程度高校の将来像が絞られてから、県と統合先となる学校の地元市町の間で調整を始めるのが最も円満な手順です。</p>	
<p>地域協議会を設置するのなら、実際の事務局を地元市町に置き、地域協議会の役割と権限、具体的検討項目、方針決定方法について関係者への事務説明を尽くし、委員の人選も協議すべきです。</p>	
<p>御意見の概要</p>	<p>県の考え方</p>
<p>魅力ある学校づくりの推進について</p>	
<p>国を挙げて学校の「働き方改革」に取り組む中、意味のある事業であっても、学校現場の負担増を招くことは必至です。従って、教職員増に踏み込む必要があると思います。ぜひ言及してください。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>次期プログラムにおいては、プラン9ページ「4 改革の方向性（4）」で示された「様々な配慮を必要とする生徒に対する個々に応じたきめ細かな支援を推進」する学校の設置を検討してください。</p> <p>策定されたプランを基にした、実施プログラムの対象か否かを問わず、プランの「基本的コンセプト・改革の方向性」を実現するためには、教職員増と教育予算の確保が欠かせません。そのためにも、貴委員会の尽力を願ってやみません。</p>	
<p>今年度、他の県から「全国募集」についての案内が届きました。要項を見ると、地域ならではの、「特色ある学び」がウリになっています。また、寮や宿泊先も、地域と連携されており、受け入れ態勢が整備されました。ぜひ、千葉県も「特色ある学び」ができる県立高校が多くありますので、地域の協力を得て、受け入れ態勢を整備していただき、全国募集が展開できないでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>「魅力ある県立高校づくりの推進」として、普通科、職業系専門学科ともに多様なコースを設置することによって魅力づくりを図る方針ですが、中学生が高校進学を選択する時点で将来の方向をしっかりと持っているわけではなく、高校で進路を考える生徒が多いことと思います。そのように考えますと必要なのは、特定の高校に特定のコースを設置することではなく、どの高校に進学してもキャリア教育がしっかりさせることではないでしょうか。特に総合的な探求の時間を有意義に活用することで、多様な職業に対する意欲を育成することができるのではないのでしょうか。職業系専門学科についても同様です。高校で専門教科を学ぶ中で2・3年生の中で様々なコースを選択するようなカリキュラムである方が生徒は選択しやすいのではないのでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>「経済的・社会的に困難を抱えている子どもたちの増加」については、高校生一人ひとりが高校で安心して学んでいけるように、修学支援策を措置していただきたいと考えます。「国の動向を注視しながら」ではなく、千葉県としての支援策を検討し、実行に移していただきたいと考えます。</p> <p>例1 小中学生と異なり、高校進学に際しての就学支援制度がありません。授業料無償制度や「奨学のための給付金」の制度拡充はもちろん必要ですが、入学時の費用負担は大きいものとなります。県立高校各校により異なるかもしれませんが、入学時に5～8万円必要な状況です。県としての助成制度は実施できないものでしょうか。</p> <p>例2 新型コロナウイルス感染対策の一環で、昼食時の「黙食」等指導の対象となっております。その是非は別として、昼食時にお弁当を用意できない。生徒の負担感を見るに忍びないです。全日制高校で昼食時の給食を検討できないのでしょうか。夜間定時制高校の給食再開も是非お願いしたいです。</p> <p>例3 高校卒業後の進学を諦めざるを得ない生徒の存在、奨学金というローンを課している現実は何とかならないのでしょうか。「地域の振興」、「地域の人材」を掲げるのであれば、県・自治体が何らかの助成（給付型奨学金の大幅な拡充）等予算化できないものでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見については、関係課とも共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>日本語を母語としない生徒の高校進学の保障とともに、高校入学後の日本語学習支援が文科省の重点課題としあげられています。県としての人的支援（教員加配、支援スタッフの配置等）はぜひ必要ですが、同時に各高校での支援内容も検討・実施すべきです。多文化共生教育、国際理解教育はどの学校でも実施すべき重要課題です。「実施プラン」の中に「グローバルスクール」があげられていますが、必要なのは「内なる国際化」対応です。外国につながる生徒がどの高校でも学んでいる実態がありながら、支援からは「放置」されている現状があります。それぞれの生徒の文化的バックボーンを尊重しながら、共に楽しく学べる学校、そのためには何が必要か、しっかり検討・実施すべきと考えます。</p>	